

令和元年度 学校自己評価【学校運営・教育内容に関するもの】

令和2年9月16日
ルネサンス大阪高等学校
学校評価・改善委員会

教育理念	学ぶ楽しさを知り、自ら学ぶ力と豊かな人間性を身につける
目標 (テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を再生して高校を卒業 学ぶ楽しさを体験する科学の授業で、生涯学び人に 目覚めよ！自分力。早期にやりたいことにチャレンジ 目標の実現をサポートする教育システムの提供

※評価基準・・・A:達成できている B:どちらかといえば達成できている C:どちらかと言えば不十分である D:不十分である

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価理由	改善方針
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っており、その編成・実施の考え方に於いて、教職員間で共有ができています。	A	学習指導要領に則した教育課程を編成し、単位認定に必要な直接指導時間を年間計画により十分に確保している。教育課程実施の考え方については教頭・教務主任を中心に各教員へ理解度を高め、共有を図っている。	直接指導については添削指導のみでは実現できない内容（観察実験や実技、討論等）の一層の充実を図っていく。基礎学力が不足している生徒への対応としてより興味を引く放送視聴教材の選定・作成を進めていく。
		教育目標	生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた支援・指導を行っている。	A		
	教職員連携	組織運営	本部及び本校の校務分掌や主任体制などが適切に機能するなど、学校の運営・責任体制が整備されている。	A	主任主事を中心とする運営体制の整備を継続して行った。教員と事務は連携しており、特に経済的に厳しい家庭への対応は緊密に連絡を取り合っており対応に当たっている。	株式会社という特性を生かし、情勢の変化に即応する体制を整えていくとともに、安定した組織運営の確立を目指す。
		教員・教科間連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築され、教育活動が行われている。	A	また、姉妹校を含めた全社での教職員研修を実施し、より連携のとれた運営をできるようにしている。	
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解及び連携がとれている。	A		
		会議の有効性	職員会議・スクーリング会議などの共通認識・共通理解のもと、有効かつ効率的に機能している。	A		
	財務関係	財務に関する意識	経営指標と財務状況について理解している。	B	2年間にわたり本校に代表取締役及び学校運営責任者が常駐し、教職員に対する財務状況等の説明、経営状況に対する教職員の意識の高まりを得た。また教職員研修でも弊社の財務状況等を説明する時間を設定し、より経営への意識を高めている。	生徒募集に限らず、より一層の経営指標への意識向上を図る。
		財務状況の把握	予算・決算の収支状況に関して理解している。	B		
	危機管理	役割分担	事故・事件・災害などに対する連携及び役割分担が明確になっている。	A	事故災害等に関する危機管理は校務分掌にて規定されている。また弊社はプライバシーマークを取得しており個人情報管理についての研修も定期的に行っている。地域公共機関との連携は、大阪市危機管理室の方と打ち合わせを持つ機会を得た。	ひきつづき消防、市危機管理室と連携をとり防災教育、研修の充実を図る。
		安全管理	学校内の安全点検管理及び諸活動が実施されている。	A		
		危機管理対応状況	危機管理マニュアルに基づき、市役所、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれている。	A		
	渉外	生徒募集	学校説明会の実施やWEB、学校案内パンフレットなど、効果的な広報に工夫・充実させる。	A	前年度（29年度）入学者837名に対し、今年度（30年度）入学者は1195名と1.5倍近い増加を見た。中学校からの入学が増えたことで近隣地区での認知度向上を感じられるようになった。	府内は言うに及ばず、奈良・兵庫等の中学校高等学校へも学校訪問を行い、認知度の向上を図っていく。また本校は経所得層の過程が多いため、学費等についてより一層のケアを行う。
各教育機関との連携		市町村教育機関への訪問や同私学連絡協議会加盟校と連携した広報活動をしていく。	A	引き続きこまめな活動で認知度向上を図る。		
教育内容・支援	直接指導・添削指導等	スクーリング参加状況	年間スクーリング日程計画に基づいた参加促進を行う。	A	各担任が電話・LINEなど様々な方法で丁寧にスクーリング参加を促し、約1400人（92%）の生徒が規定のスクーリングを終了することができた。	出席率の高い時期と低い時期があるので、メリハリのついた開講日設定が必要となる。
		スクーリング内容（直接授業）	各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開していく。	A	すべての教室にモニターが設置されており、パワーポイントやインターネット動画などの利用で生徒の理解を深める体制が整っている。	生徒の満足度を高めるべく各教科で指導内容のさらなる精選を図る。
		レポート内容・添削	レポートが学習成果（興味・意欲・関心）につながる内容になっている。また、インターネットを活用した添削結果の返信がないよう、計画的な業務を行っている。	A	レポートの学習進捗状況を毎月送付するようにして、提出の注意を喚起している。	単位認定に支障が出ないよう管理職による各教員への添削の働きかけを定期的に行う。また動画の内容の改善も継続して行う。
	情報発信	ネット回線の有効活用	本校独自でネット開設している「マイページ（通称）」にて、タイムリーな情報提供を行っている。	A	マイページに情報を提供することに加えて、担任がLINEを通じて周知を図っている。	職員会議などを通じて教員の、生徒への連絡事項の共有の徹底を図る。
		個人に対する効果的な情報提供	本校独自でネット開設している「マイページ（通称）」にて、生徒個々の学習進捗が確認できる。	A	各担任はマイページで進捗を確認し、レポート提出促進・スクーリング参加促進に活用した。また本社の教務本部からの情報提供も定期的に行われている。	保護者用マイページをさらに活用し、保護者との連携強化を行う。
	情報教育	情報能力知識	各種活用能力の知識を向上させる。	A	スマートフォン・タブレットの活用能力は高い生徒が多いが、PCのスキル向上が課題である。	教員の情報能力・知識の向上に努める。
情報モラル指導		情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取り組む。	A	情報科を中心に情報モラル教育の推進に取り組んでいる。	教員の情報能力・知識の向上に努め、IT能力に長けた人材の登用を行う。特別活動で情報モラル教育を行う。	
生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度（進路卒業・進路決定など）を高める。	A	卒業率は96%である。	進路指導部を中心に進路決定率のさらなる向上を目指す取り組みが求められる。
		生活指導について	学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識にて運営していく。	A	生徒指導部を中心に組織的に取り組んだ。	今後も生徒指導部の方針を各教員に徹底する必要がある。
		家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活が送れるよう支援していく。	A	担任の教員はそれぞれに努力しており、各分掌もバックアップしている。今年度よりスクールカウンセラーを設置した。	保護者の来校機会の増加による信頼関係の構築、外部専門家の協力が求められる。
	進路指導	キャリア教育（進路指導）に取り組む体制が整備され、生徒の自立に向けた取組みが実践されている。	A	進路説明会を開催しており、大学・専門学校・企業を招いての情報提供を行っている。	外部講師を招いたり、外部の研修に参加しやすい体制を作る。	
	保健指導	健康の保持増進について	心身ともに健康であるための支援（定期連絡やスクーリング時における授業にて支援）	A	健康調査票のシステム化を進めた。またスクーリングに参加する生徒に対し保健室から聞き取り調査を行っている。担任も生徒連絡時に確認している。	保健だよりなど保健室からの積極的な情報発信を図る必要がある。
その他	教職員研修	資質向上	教職員間で職務内容（生徒対応など）を把握し、意見交換などを行う機会を設定している。	A	職員会議と運営会議をそれぞれ月に1回設定し、情報交換を行っている。	本社他部門との情報共有の徹底が必要である。
		研修の充実（校内・校外）	教職員が計画的に校内研修に参加できる習慣や体制が整備されている。	B	グループ全体の個人情報保護研修に加え、毎月eラーニングによる研修に取り組んでいる。	外部の研修に参加しやすいスケジュールの設定を考える。また外部の講師を招くことも考える必要がある。
		他校及び関係機関との連携	姉妹校との連携を深め、通信制高校としての在り方などの情報交換を行い、学校全体としての向上を高める。	B	宿泊型スクーリングの姉妹校と通学型スクーリングの本校では抱える課題が違うため、連携には困難が伴う。	グループ内の合同研修を継続し、意見交換を行う。
	地域との連携	地域への貢献	地域行事への参加、経済的貢献。	C	都心のため地域のつながりが薄いという困難を抱えている。	地域の専門学校への体験学習やボランティア活動への参加、地域を知る活動を視野に入れる必要がある。

校長 教頭 事務長
板倉 成相 鎌田